



## 新会長に就任して

古川 安\*

この度、化学史学会会長を仰せつかりました。光栄であるとともに、任の重さを考え身の引き締まる思いがいたします。亀山前会長には、長年にわたり本会のために多大なご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。玉蟲文一、奥野久輝、立花太郎、柏木肇、芝哲夫、亀山哲也の歴代会長、そして諸先輩が築いてきた伝統を受け継ぎ、「会員相互の協力によって化学史研究の発展と普及をすすめる」という本会の目的を達成するために微力ながら努める所存ですので、よろしく願い申し上げます。

周知の通り、本会の前身である化学史研究会は1973年12月に発足しました。爾来、37年の時が流れましたが、その間、毎年化学史研究発表会（年会）の開催、今日まで133号にのぼる会誌『化学史研究』の発行、春の学校や夏のサロンや化学史研修会などの諸行事の開催、化学史古典復刻事業、学術書・翻訳書の出版など、多彩な活動を展開して参りました。本会は大手学会とは異なり小規模な学会ではありますが、今後とも身の丈にあった活動を可能な限り行ってゆきたいと考えております。本会の会員は、専門の化学史・科学史家のみならず、化学者、エンジニア、高校教員、洋学史や科学技術社会論などの関連諸分野の研究者、化学史に関心をもつ一般の方々から構成されています。それゆえ、会員それぞれの化学史に対する価値観、問題意識、関心事も同一ではありません。この多様性が本会の特徴であり基盤であることを認識したうえで、会の発展に努めて参りたいと考えます（なお、日本の化学史研究者集団と本会の歴史については、本号掲載の論考「化学から歴史へ」をご参照いただければ幸いです）。

本会の理事会・編集委員会は無償のボランティアで運営されています。私自身もかつて体験したことですが、事務局長の業務は地味ながら労の多い仕事です。毎月開

催される編集委員会では、委員長はじめ委員諸氏には多忙な本務の合間に文字通り「手弁当」で献身的に業務を行っていただいております。今後とも役員と力を合わせて努力して参りますので、会員の皆様のご理解をお願いする次第です。

本会は2013年12月に創立40周年を迎えますが、それを記念する行事を計画しております。まずは、本会の歴史に関する資料の収集、関係者へのインタビューによるオーラル・ヒストリーの実施、年表などのデータベースの構築を行い『化学史研究』の特集号としてまとめることを企画しております。

このほか、海外から研究者を招いて国際ワークショップの開催、英文書の出版なども検討しております。化学史学会はイギリスの錬金術史化学史学会（Society for the History of Alchemy and Chemistry）とともに、世界で数少ない独立した化学史の学会です。既に開始しているアメリカの化学遺産財団（Chemical Heritage Foundation）との交流をはじめ、外国の諸団体と緊密な連携をとりながら、学会の更なる国際化を進めて行きたいと考えております。

若い人材の育成、化学史・科学史の普及、理科教育への対応、会員の増強など、本会の今後の課題はいろいろありますが、一般会員の方々からも忌憚のないご意見を頂戴し、多彩で魅力ある学会活動を推進したいと願っております。ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

### 略歴

1971年 東京工業大学工学部合成化学科卒業

1971年-1977年 帝人株式会社勤務

1983年 米国オクラホマ大学大学院科学史博士課程修了 Ph. D. 取得

帰国後、横浜商科大学商学部助教授、東京電機大学工学部教授を歴任、2004年より日本大学生物資源科学部教授

\* 日本大学 生物資源科学部 科学史研究室  
Email: furukawa.yasu@nihon-u.ac.jp